



第41号

平成28年7月10日

発行：臨濟宗妙心寺派
北海道教区

見 跡
第二講



平成二十八年度花園会推進テーマ
おかげさま
ー自然の恩ー
大自然の恵みの中で

十牛図 第二講 「見跡」

札幌市 瑞龍寺 起龍軒老大師

「おぼつかないころづくしに 尋ねれば 牛のあとかな」

ゆくえも知らぬ 牛のあとかな

ある時、私は公務員の檀家さんのお宅へ法事に伺った。おつとめも終わってお茶をいただいた。と仕事場での体験を話してくれた。

現在、タイの国からの公務員何人かを研修に受け入れて制度上の仕事を学んでいるとのこと。その合い間に昼食をとり、トイレにも行くことになるのだが、その外国人達皆は驚くことがあると云う。日本人の水場での水の使い方が放漫で、いつまでも水を流しっぱなしで使い放題だ。自分も云われてハッと気づいたことがあると云った。昔小学校の時代、おじさん、おばさんからうるさく咎められたことはないかと。

私も修行時代の始めの頃、それまでの世俗の日常生活との隔たりに悩み、修行している意味が見出されないうちに、悶々と日々を送っていた。ある時、師が墨跡を依頼され、私に墨を擦るよう命ぜられた。擦りながら、その時も私の心は煩悶していたのであろう。たちまち手違いを起こし硯を置にひっくり返してしまった。師の怒りを覚悟したが、その時の一言「お前はここをいったいどこにおいておるのだ」これはその時の私にとって恐ろしく厳しい生きた言葉となった。その後の修行生活に没頭することになる、大転換の出来事であった。

今、町の中を歩く人、車を運転している人を見ると大分の方が便利な電子機器に夢中になっていつも忘我の状況となっている。「物」に追われて自分というものが失われてきておる。そのころの貧しさが日常生活に支障をきたし「処世の術」を求めようになつてきている。当山も多くの方が失ってきた「こころ」の足あとを発見しようと坐禅にきている。

「忙しい忙しい それは頭の中だけ
まず坐れ 呼吸は静かだ」

No.2 法眼寺

われら道産子 臨済宗寺院

寺院名

紫雲山 法眼寺 三等地一級

宗派名

臨済宗 妙心寺派（靈雲派）

所在地

室蘭市八丁平三丁目四十番九号

現住職

船場一讓（道号、法眼 諱名、一讓）
昭和二十八年四月十三日生

開創

昭和四十六年四月一日

本尊

釈迦牟尼佛

勧請開山

妙心寺五六三世莞応祖眠禅師大和尚

創建開山

特贈前住妙心当山開山大真密和尚大禅師



「平和と復興のいのり」
札幌市 瑞龍寺 責任役員 森隆明

昨年十一月二十五日、名古屋市・覚王山日泰寺で行われた「平和と復興の祈り」に参加して来ました。このお寺は日本で唯一の「超宗派」の寺院で、タイ王国から寄贈された「仏舍利（釈迦の遺骨）」を安置するため創建され、「覚王」とは釈迦の別名「日泰」とは日本とタイ王国を表しています。各宗派の管長が三年交代で住職を務める事になっており、現在、妙心寺の峰管長猊下が住職です。

この日は七〇〇人を越す参加者で平和を願う大法要が営まれた後、会場へ移動して「平和講演」・ピアノ・バイオリンによる「平和記念音楽会」が行われました。講演では名古屋大空襲に遭遇した吉田さんが「市内は黒く焦げただれた屍が山のようにだた」と話しておりました。淡々と語られる締めくくりは「二度とこのような悲惨な事を起こしてはならない」という事。戦争体験が次第に忘れ去られ、平和な世の中ではあるのだけれど、何時でも「平和」の心を持ち続ける大切さを学びました。

「全国会長会参加報告」
教区花園会女性部会長 佐藤千工子

二月九日日本山にて全国女性部会長会に出席してまいりました。長年、愛知東教区、東京教区の女性部が結成されておりませんでした。この度愛知東教区、東京教区の女性部が結成され、今回会長さんに就任していただき、これで全国二十七教区の会長さんが揃ったの記念すべき第一回の会長会に成るとの事です。五月九日全国女性部東京大会が開催されます。九名ですが北海道沖繩の方は一〇名以下何名でも宜しいとの事でしたので教区役員会におきまして教区女性部役員で参加する事に成りましたので会員の皆様には御理解いただきました。存じます。

此の度初めての全国花園会女性部会長会に参加する事で行く時は緊張と不安で一杯でしたが本山妙心寺を目的の当たりに歴史の重さを実感し夕食での懇親会では和気あいあいと非常に大切な時間を過ごす事ができました。全国二十七教区の女性部が結成され、共に今後女性部活動が活性化される事を祈念致しまして、会長会参加報告とさせていただきます。

「全国女性部東京大会に参加して」
教区花園会女性部副会長 畠山芳枝

五月九日「舞浜ヒルトン東京ベイ」を会場に、全国より総勢七〇〇名余りの方々が集まり「おかげさま・自然の恩・大自然の恵み」をテーマに全国女性部東京大会が行われました。特別講演では「天然記念物・平林寺の境内林と禅修行く自然の恩・師の恩」と題して埼玉県、平林寺住職・松竹寛山老大師による講演を拝聴しました。

平林寺二十二世・敬山老師は「雲水の修行には大自然が不可欠」と、広大な雑木林の寺領を守り、現在の平林寺の基盤を築きました。その雑木林の広さ十三万坪。境内の林は手入れ無しでは荒れてしまう為、雲水達は「伐採・剪定・植樹・草刈」を繰り返して、美しい風景が造られています。それに伴い出る木材は燃料や堆肥と成り、暮らしを豊かにし、時々の役割を果たしている。昭和四十三年国の天然記念物に指定され、現在は後世に伝えるべく保全事業を始めているそうです。

今回の大会は、全国二十七教区全てに「女性部」が設立した事を記念して九年振りの開催と成りました。笠原女性部会長からは、常に生活信条を胸に秘め、「手伝おうという気持ち」「助けたいという気持ち」「お役に立ちたいという気持ち」を決して忘れることのないようにと、話されました。この記念すべき大会に参加出来た事に、心から感謝致します。有り難うございました。

室蘭は新日本製鉄・日本製鋼・ジャックスなどの工業と、自然に恵まれた港があり、石炭の積み出し港として発展してきました。

法眼寺は室蘭東部標高150mほどの「八丁平」というところにあります。3町会で人口7000人余り、小学校・室蘭大谷・看護学校やコンビニがあり、子育て世代が安心・安全に暮らせる活気ある街です。お寺が新築した平成元年には、家屋もまばらで雑木林の茂みが多く、こんなに発展するとはユメにも思いませんでした。

法眼寺は創建時には檀徒が少なく、先代の「全蜜和尚」は総代の工務店で大工をしながら寺を護寺してきました。八丁平に移転した際にも「檀家に負担や迷惑を掛けぬよう」という信念を通したように思います。

特別珍しい行事はありませんが、以前より本堂・会館を町内に解放して来ましたので、立派な町内会館が出来た現在も境内清掃や一泊懇親会など、檀信徒だけでなく町内の人達が楽しく参加しております。

『足るを知る』を生涯実践された先代「全蜜和尚」の教えを心に、檀信徒からもご近所からも「うちのお寺」「私たちのお寺」と言われるように精進いたします。



北海道から76名の美人さん熱唱です



総勢1870人の皆さんをお迎え中～



管長さまから賞状！ドキドキです

平成二十七年九月二十七日、二十八日に、第六十五回全国奉詠北海道大会が札幌市コンサートホール・キタラで行われました。特に無相教会創立八十周年を記念する大会でもあり、全国より千八百七十人もの方が北海道を訪れました。このホールは「魔のホール」。一人一人の声が観客席までキレイに聞こえるが、一人の失敗もキレイに聞こえる。北海道からは七十名の会員さんが心を一つにして、朗々と御詠歌を唱え感銘を受けました。



師範の皆さんはやっぱりスゴイ！



臨濟宗妙心寺派 花園流御詠歌

第65回 全国奉詠北海道大会

～無相教会創設80周年記念大会～

写真提供：札幌コンサートホール



畠中詠鑑さんと大橋詠導部長さんは同級生・大の仲良しなんです♡



二度とキタラのホールなんて上れないよね☆



余興は元気にyosakoiで♪

「無相教会全国大会に参加して」
当麻町 円明寺寺庭 大橋美津子

昨年九月二十八・二十九日とサッポロキタラにて全国大会が行なわれました。教区の厚い思いが実ったのです。

私達は二十九日の最後の合同練習が一度も出来ず本番を向え、控え室では並び順がうまく行かず不安でしたが、本番で一曲二曲と大きな声で朗々と七十六名の心が一つになりお唱え出来涙が滲みましました。努力、各支部との繋がり、結晶だと思えます。

宴会でのジャンケン大会、よさこいソーラン、北海盆踊りでは大勢の参加で盛り上がり楽しく笑顔で終わりました。

畠中詠鑑先生、名誉師範末広先生には毎年ご指導いただき感謝しております。お尚様方々役員様には大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

今後共各支部様をご精進されます事を願います。皆様お疲れ様でした。

合掌



波平と円明寺寺庭さん2ショット☆



北海盆唄には波平も乱入

お盆の供養、くめぐりめぐって、
 広島県三次市鳳源寺 和田 牧生

教区の皆様、春の定期巡教ではご縁を頂きありがとうございます。取り分け三部の開教寺院様には大変お世話になりました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

お盆の時期、皆様方にはご先祖様の供養、恙なくお勤めのことと思えます。

供養とは、サンスクリット語のプージャーまたはプージャーの訳で、仏・菩薩・諸天などに香・華・燈明・飲食などの供物を真心から捧げることを意味



し、今日では死者・祖先に対する追善供養として行われています。お盆では各地域の風習で、飾り付けや時期等多少の違いはあっても、ご先祖に真心をもって様々な物をお供えします。

また、我々僧侶は、棚経といって檀信徒の各家を回って供養をいたします。限られた日数でたくさんのお宅を回りますからちょっと大変な時期でもあります。

私が以前籍を置いてたお寺でもお盆の三日間はとても大変でした。読経の後ゆっくりとお茶など頂いてたら一日のノルマを果たせません。だいたい「次のお宅があますので」とお断りしてました。

ある年、一番最初に伺ったお宅でのことです。お勤めが終わって挨拶して次へのお宅へと向かおうとしたとき「お茶でも召し上がって行って下さい」と。もちろんお断りしました。すると「これも供養ですから」と更に勧められました。その一言で固まってしまいました。案の定、午前中の予定が昼過ぎまでかかってしまいました。

後で思うと気づきました。ご先祖様に直接お供えしたり、お経を上げるだけが供養ではないのだと。棚経でお茶を出してくれた檀家さんと私とのやりとりは、そのお宅のご先祖にとっては別な場所でのやりとりです。それが巡ってそのご先祖さんに届くんだという事です。

ご先祖様は、生きている者同志が微笑んでる姿を喜んでくれるはず。あの時、もっと笑顔でお茶を頂けば良かったと悔やまれてなりません。

今年のお盆、家族親戚が集まった折、楽しんでみませんか。

その姿は巡りめぐってきっとご先祖様に届くはず。



「歳末托鉢」
 北海道教区第一部 宗務支所長
 岩見沢市 明心寺住職 徳重寛道

平成二十七年十二月九日、札幌市の中心市街地にて、恒例の「歳末托鉢」を執り行いました。

教区第一部では、平成七年の「阪神淡路大震災」を契機として、若手僧侶中心として歳末托鉢を行っておりますが、今回で丁度二十年を迎えることとなりました。

僧侶の自己研鑽とともに、少しでも多くの（現代人）の方々に、修業の基本である（托鉢）の意義を啓蒙することも兼ね、近年は（大都市）札幌の中心市街地を托鉢しております。

参加したのは総勢十三名。コースは「狸小路一丁目～三越前」の約三時間。当日は何時にもなく少雪で温暖でしたが、それでも師走十二月。前日に降り積もった氷雪の名残の中、素足に草鞋履きの冷たさに耐えながら雲水姿で托鉢する僧侶たちの光景は、多くの方に感動を与え、ものとなったように思えます。特に今年、狸小路を訪れている多くの外国人の観光客から、盛んにカメラを向けられた事が印象に残りました。

頂戴した喜捨は金六万二千五百二十四円：全てご本山の花園会「おかげさま献金」に納付させて頂きました。有難うございました。

「第二部活動報告」
 北海道教区第二部 宗務支所長
 旭川市 大道寺住職 安川天堂

第二部内には妙心寺派七ヶ寺、相国寺派一ヶ寺、計八ヶ寺があります。

部内は旭川市から三十分内の範囲に各寺院があります。そのため一月には大般若祈禱会を部内の和尚さんが各お寺に荷担をしてお参りを致します。

また六月頃には女性部の研修会があり、各寺院持ち回りで大勢の方の参加で執り行われます。

八月には御施餓鬼・お盆の供養も各寺院を回って荷担致します。

四月、十月には神皇寺、明覚寺の山開き・山じまいを行います。

八月には大道寺にて子供縁日を行います。

円明寺ではビールパーティ、観音寺では役員懇親会を各寺院で行っています。

秋には各寺院が周り当番で秋季特別布教会を執り行っています。

十二月には部内青年僧の会が歳末助け合いの募金活動をしています。

「道東臨済宗花園会・少年少女研修会」
 北海道教区第三部 宗務支所長
 中標津市 大慶寺住職 田中素裕

本年度、我が花園会少年少女研修会【夏休み@禅寺すくーる】は、第二十五回を迎えます。ご住職様方はもちろんのこと、各寺院の花園会役員様方と会員皆様ご協力の下に、様々な禅寺の修行、地域のイベント体験、また、その中の生活地域の異なる子供達同士の出会いを通して、子供達なりに、命と心があることを知り、その尊さを学ぶきっかけとなれば、との思いで続けて参りました。

参加される子供達一人一人を中心に、和尚様方、当番寺院花園会の皆様方、地域の皆様方が、団結し協力し合う姿に囲まれておりますと、まさに花園の中にいるような幸せな気持ちにも至ります。坐禅や写経食事作法など、大人でも大変な修行体験ですが、理屈も無くその姿勢に向けて頑張る姿は感動的でもあります。

時には過去に参加してくれた子供達も、手伝いや、様子を見に来てくれます。それぞれ立派に成長したその命と心に接する時、皆で蒔いてきた種のなんたるかを感じ、福田衣を身にまとう者として、大変有り難き慶びを感じさせて頂いております。

皆様それぞれに苦心し、心を込めて蒔いてくれた種のおかげさまと、常に子供達の目線にてご指導に尽くされ、本年一周忌を迎えられた国泰寺松浦暢道師の本願あつてのことと、深く感謝を申し上げます。

皆様には、これからの益々のご協力を賜りたく、切にお願い申し上げます。

花園会決算・ご報告

平成27年度教区花園会会計決算報告

収入の部				
-は予算比減				
平成27年4月1日～平成28年3月31日				
項目	予算	決算	増減	備考
1. 繰越金収入	1,040,671	1,040,671	0	
前期繰越金	1,040,671	1,040,671	0	前年度よりの繰越金
2. 会費収入	1,225,600	1,229,400	3,800	
会員割当金	1,225,600	1,229,400	3,800	割当金200円×6,147会員
3. 助成金収入	608,700	534,240	-74,460	
教区推進助成金	120,000	130,000	10,000	27年度分教区推進助成金
研修会旅費補助金	400,000	317,040	-82,960	昨年度本山研修の参加に比例する
参拝推進助成金	10,000	10,000	0	
研修会助成金	0	0	0	
無相教会助成金	78,700	77,200	-1,500	7月18日・11月13日
花園会本部助成金	0	0	0	10月28～29日・大会開催分
4. 雑収入	125,029	754,910	629,881	
雑収入	125,029	754,910	629,881	利息・無相教会全国大会・役員交流会残金
合計	3,000,000	3,559,221	559,221	

支出の部				
-は予算比減				
平成27年4月1日～平成28年3月31日				
項目	予算	決算	増減	備考
1. 事業費	300,000	100,000	-200,000	
教区花園大会	0	0	0	今年度無し
花園会役員交流会	100,000	100,000	0	6月24～25日。ロンスケープ輪厚
無相教会全国大会助成金	200,000	0	-200,000	本山からの500,000円と茶煤で充足
2. 助成費	1,540,000	1,120,000	-420,000	
花園会本部寺院役員研修会	180,000	0	-180,000	
花園会本部少年少女研修会	240,000	120,000	-120,000	法眼寺・引率+子供2名
秋期特別布教花園研修会	300,000	300,000	0	100,000円×各部へ
教区各部少年少女研修会	50,000	50,000	0	3部で開催。50,000円
青壮年部本部研修会	0	0	0	
教区無相教会助成金	250,000	250,000	0	教区無相教会本部へ年間活動費
花園会女性部活動助成金	100,000	100,000	0	教区花園会女性部へ年間活動費
平和記念法要助成金	420,000	300,000	-120,000	名古屋・教区所長と1・2部より各2名計5名
3. 教化費	400,000	396,064	-3,936	
花園会報	300,000	296,064	-3,936	26年度
大衆禅堂準備費	100,000	100,000	0	瑞龍寺さまへ
4. 会議費	700,000	938,616	238,616	
花園会役員会	700,000	938,616	238,616	教区花園会役員会・27.9/1・28.3/3
5. 事務通信費	20,000	0	-20,000	
通信費	10,000	0	-10,000	
事務費	10,000	0	-10,000	
6. 雑費	10,000	0	-10,000	
諸雑費	10,000	0	-10,000	
7. 予備費	30,000	0	-30,000	
予備費	30,000	0	-30,000	前教区女性部長・大野美智子さま弔電
8. 積立金	0	0	0	
積立金	0	0	0	
合計	3,000,000	2,554,680	-445,320	

科目	金額	備考
収入合計	3,559,221	
支出合計	2,554,680	
差引残高	1,004,541	次期繰越金

財政調整基金現在高報告 1,500,000円

平成28年度花園会事業計画

平成28年		平成28年4月1日～平成29年3月31日	
月	日	事業	場所
5月	9	花全国花園会女性部東京大会	ヒルトン東京ベイ
7月	5～6	第4回花園会役員交流会	道南
	7～8	全国花園会会長会	妙心寺
8月	27～29	第24回少年少女研修会	観音寺
	31～9/1	花園会代表役員会	第一ホテル
10月	11～12	教区花園大会	阿寒湖温泉
	26～28	無相教会全国奉詠大会	妙心寺
		秋期特別布教・花園研修会	実相寺
		秋期特別布教・花園研修会	瑞龍寺
		秋期特別布教・花園研修会	見性寺
11月	10～11	花園会寺院役員研修会	妙心寺
平成29年			
1月	18～19	全国花園会会長会	妙心寺
2月	6	花園会女性部会長会	妙心寺
	13	花園会青壮年部会長会	妙心寺
		花園会代表役員会	第一ホテル
3月	24～26	花園会少年少女研修会	妙心寺

「花園会役員交流会」

花園会青壮年部の活動

平成二十三年度に青壮年部が結成されて以来、会長・安田秀敏さん、副会長・森谷武さん、阿部清光さんの体制で活動しております。今年、第四回を迎える「北海道教区花園会役員交流会」が、七月五～六日に新篠津村「しのつ公園パーク

ゴルフ場」で開催されました。年一回の開催ではありますが、青壮年部の活動として定着しており、この集まりを機に各寺での活動を活性化させていければと考えております。特に座談会では花園会の部会を越えて、活発な意見交換や腹を割った話が飛び出します。来年度も多くの方のご出席をお待ちしております。

ご報告

旭川市・洪岳寺副住職・大江紹智和尚さまが昨年六月三日にご結婚されました。おめでどう御座います。帯広市・大乘寺・豊田應道和尚さまが九月十三日にご晋山されました。同日に豊田洪道和尚さまが退山されました。寺院の興隆に御尽力された和尚さまです。長い間お疲れさまでした。

ごあいさつ

支所長就任の「ごあいさつ」

北海道教区第一部 宗務支所長
岩見沢市 明心寺住職 徳重寛道

このたび第一部の宗務支所長の役を仰せつかりました。岩見沢市の明心寺住職、徳重寛道と申します。天命を知るべき五十歳。妻と高校一年の息子が、八十五歳になる前住職との四人家族で、お寺を預かっております。(余談ですが、趣味は吹奏楽のチューバ吹き。近ごろ禁煙に成功しました！)

さて御存知の通り、北海道教区は地域的に三つの「部」に分けられ、第一部は、岩見沢を含め、札幌・江別・石狩・苫小牧・室蘭・豊浦・留寿都といった、いわゆる道央圏の広い地域に、十一ヶ寺が点在しております。しかし、各地域の風土・寺院ごとの事情もあり、全ての「お坊さん」が一同に会する機会は滅多にありませんし、寺院を超えての役員さん同士、檀家さん同士の交流が盛んであるとも、決して申せません。

そのような中、少しでも風通しが良くなるように、公式文書等の的確な伝達事務は勿論ですが、各寺院のご住職様やお檀家様方のネットワークの要として、微力ながらお世話させて頂きたい致します。これから四年間、どうぞ宜しくお願い致します。
Facebook → <https://www.facebook.com/myoshinjij/>

「無相教会」より

北海道教区無相教会詠導部長
当麻町 円明寺住職 大橋荘元

北国に梅の開花も始まる好時節を迎えた今日この頃。皆様にはご健勝の事とお察し申し上げます。

昨年の九月札幌キタラにて、北海道では初の無相教会全国大会が開催することが出来ました。非常に盛り上がり、今までの大会の中でも参加者全員、思い出残る良い大会に成った事と思います。これは偏にご協力戴きました和尚様方の努力の賜と存じ、書面にて御礼申し上げます。

北海道には平成十三年より名誉師範の末広政子先生に毎年来て戴きました。この数年は畠中詠鑑と末広先生には、私の我儘にて指名致しましたのに、寛大な気持ちでお受け頂いたこと感謝申し上げます。平成十六年からは毎年「発展拡充大会」を開き、沢山の先生に御指導頂きました事を御礼申し上げます。その間に各寺院も詠導部設立が進み、強化教区より除外されてました事は、偏に和尚様方のお力の賜と御礼申し上げます。

今年より明心寺住職に詠導部長をお願い致しました。今後教区の無相教会が益々ご発展する事を願っております。長い間ありがとうございます。合掌

「写経のすすめ」

教区花園会会長 富田良孝

春の息吹が萌える季節となり、寺院のご住職様、花園会員の皆様にはご健勝にて御活躍の事と拝察しお慶び申し上げます。

今年には「東日本大震災」発生から五年目を迎えました。全国各地での慰霊法要が開催されておりますが、大本山妙心寺でも毎年「花園会平和復興のいのり」の催しが行われております。被災地が一日でも早く復興し、平穏の日が訪れますことを願っております。

また妙心寺ではこの度、大方丈にて「写経道場」が開設され、「百万人運動」として花園会員の皆様は率先して納経に取り組んで、心の安らぎを感じて頂きたいと呼びかけております。菩提寺を通じて申込みをお願いいたします。

どうか皆様には御自愛戴き、日々の仕事に精進せられ、その生活の中に花園いっばいの心を培われますようお祈り申し上げます。益々のご繁栄を祈念しご挨拶と致します。

臨濟宗妙心寺派 北海道教区花園大会

三年に一度開催される「北海道教区花園大会」。今回は道東の名湯、阿寒湖温泉「ホテル鶴雅」で開催されます。今年度の花園会推進テーマが「おかげさま・自然の恩」であります。阿寒湖畔は北海道でも無比の原生林を有する地域であり、紅葉時期と相まって訪れる人に大自然の感動を与えてくれます。研修を通しての理解と、大自然の中で心が感じ取る物により、一層の理解と成果が深まることでしょう。

日時 平成28年10月11日(火)～12日(水)
会場 阿寒湖温泉 あかん遊久の里 鶴雅
総裁代理 瑞龍寺住職 起龍軒老大師
講話 花園会本部長 鮎川博道師
講演 「生き物から学ぶ思いやりの心」
元円山動物園園長 長尾章朗氏



あかん遊久の里
鶴雅

写真提供：鶴雅リゾート株式会社

後編 後記集

「僧風刷新」という言葉が聞かれないようになって久しい。自分の中では何時でも持ち続けたい言葉である。

わたしが正眼短大に入学するときに、当時兼務住職であった士幌町・実相寺の先住さんが同行して下さいました。一緒にお酒を飲みながらお話しした最後締めくくられるように「臨濟宗の坊さんらしいお坊さんになりなさいよ」と言われた。当時十八歳の私は理解する事が出来なかったのを覚えている。

「銘刀で豆腐を切れ」って話なんです。どんなに立派な刀でも床の間に飾っているようでは食いつ持たない。現代に必要とされる使い方ができて初めて「生きて」くる。僧侶一人一人がどういふ働きをするのか、試されている時代なんです。

(発行人) 船橋佳山

(編集者) 川邊正道

安川天堂 徳重寛道